乳がん・乳腺センターについて

東京警察病院の外科・乳腺センターで乳腺を専門に診させていただいている鈴木純子と申します。近年、日本人女性の９人に１人が乳がんにかかると言われています。身近な方に乳がんの治療を受けたことがあるご家族や友人がいらっしゃる方も多いのではないかと思います。乳房にできる病気としては良性のものもありますが「しこり」ができると、まずは悪いもの、つまり癌ではないか、ということを真っ先に心配してドキッとされるかと思いますので、今回は日本人女性で癌の中でも一番頻度が多い乳がんについてお話させていただきます。

外科 主任医長
鈴木 純子
[専門領域]
乳腺外科　一般外科
[主な資格]
日本外科学会 外科専門医/日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医/日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師/日本がん治療認定医機構 がん治療認定医/日本乳房オンコプラスティックサージェリー学会　乳房再建用エキスパンダー/インプラント治療責任医師/日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構診療責任者・実施医

乳がんについて

乳がんが見つかるのは40代が一番多い年代ですが、最近では20代の若い方から80～90代以上のご高齢の方で診断されることも多くなっています。女性であることがすでに乳がんのリスクと考えて、検診を受けることも大切ですし、気になる症状があるときや検診で精密検査必要となったときには早めに受診して、もしもの時には早く適切な治療を開始することで完治することも多い比較的予後の良い病気です。

男性も乳がんを患うことがあります。男性の乳がんは全乳がんの1%以下と稀で、女性のように乳がん検診を受けるということはありませんが、片方や両方の乳腺が発達してしこりのように触れたり痛みが出たりする治療の必要はない女性化乳房のことも多いですが、乳頭のあたりが腫れたり硬く触れたり、乳頭から分泌物が出たりするときには、男性の方も受診して検査を受けてください。当院でも毎年150件前後の乳がんの手術のうち、平均すると毎年1-2名の男性の乳がんの治療もおこなっています。50-60代以上のことが多いですが、当院でも20～30代の男性乳がんの患者さんもいらっしゃいます。

乳腺センターについて

乳がんと言ってもいくつかのタイプに分かれており、それぞれのタイプや進行の程度によって治療は様々です。乳腺外科では診断から手術・薬の治療をおこないます。手術の方法も、乳房をできるだけ残す温存手術や全て切除する乳房全摘術、治療に影響ない病状のときにはご希望があれば切除したあとに再建といわれるいわゆる豊胸術を形成外科の先生にお願いすることもあります。

薬の治療はホルモン療法・いわゆる抗がん剤・分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤といわれる最近になって使えるようになった新しいタイプの薬も増えています。それぞれの乳がんのタイプに応じて手術の前後で再発予防のためと、もしも再発してしまったときにもタイプに応じて治療薬を選択することになります。その他に放射線治療が必要なこともあり、外科のみで完結することができないような場合には、検査から治療まで外科以外の他科・多職種と連携して乳腺センターとして診療をスムーズに進められるようにしています。

症状がない方の乳がん検診はドックのオプション検査として行います。乳腺センターの外来では、検査はすべて女性技師が担当し、検査結果もすぐに外来担当医に伝わり、必要な追加検査にも迅速に対応し、専門の看護師とも協力して安心して検査・治療を受けられるような体制をとっています。最近予約が取りづらいこともありますが、ご自分で気になる症状がある方や、当院ドックや他施設での健診で精密検査が必要と指摘された方は、可能な限り予約外でも対応させていただいていますので、まず乳腺外科を受診してください。

乳腺エコー担当の臨床検査技師

マンモグラフィー担当の臨床放射線技師